

桜谷小学校 感染症予防ガイドライン R2.12.7 改訂版

全国で新型コロナウイルス感染症の新規感染者が増え続けています。空気の乾燥によりウイルスが広がりやすいことがわかっていますが、冬場の乾燥や換気の難しさが気になります。また「慣れ」による気の緩みも心配されるところです。新しい情報を取り入れながら、本校でのこれまでの対策を丁寧に実践することが大切だと考えます。いつ誰が感染してもおかしくない状況の中、学校内での感染拡大を防ぐためにはご家庭のご協力が不可欠です。どうぞよろしくお願いいたします。

基本的な感染症対策をていねいに！
家でも同じようにお願いします。

登校前の体調チェック

- 1つでも当てはまる場合は欠席を
- 平熱を超える発熱
 - せきやのどの痛みなどの風邪の症状
 - だるさや息苦しさ
 - 臭覚や味覚の異常
 - 体が重く感じる、疲れやすいなど



規則正しい生活で
免疫力を高めよう

- 早ね・早おき。十分な睡眠時間を。
- 朝ごはんをしっかりと。
- 寒いときこそ体を動かそう。

健康・給食委員会 5,6年生作成

しんがた 新型コロナウイルスの せいかく 性格は？

はじめはしうじがでない
いそに広がる
細かいひまつてとびちる
長い時間空气中をただよ。

コロナウイルスはどこにいる？

はなづか 牛物の表面 はみかきはちく!
白の甲

手あらいは ていねいに しょうどく 消毒は こすりつけて

指先・指と指の間、おや指のこう本が
手全体にこすりつける
あたる!!
爪のひらけは

手洗い

正しいやり方をもう一度見直そう

正しい手の洗い方

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう

- 1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
- 2 手の甲をのぼすようにこすります。
- 3 指先・爪の間を念入りこすります。
- 4 指の間を洗います。
- 5 親指と手のひらをねじり洗います。
- 6 手首も忘れずに洗います。

- ・登校後すぐ、外から教室等に入る時や、トイレの後、給食の前後など、こまめに手を洗う。
- ・手を拭くハンカチやタオルは個人持ち 人に借りない。
- ・手指で、目、鼻、口をなるべく触らない。

手洗いの、5つのタイミング

公共の場所から帰った時



咳やくしゃみ、鼻をかんだ時



ご飯を食べる時



病気の人へのケアをした時



外にあるものに触った時



マスク



正しいマスクの着用



マスクを着用すると、吸い込むウイルスを減らす効果と、ウイルス拡散を抑える効果の両方が得られることがわかっています。食べ終わったらすぐマスク、運動し終わったらすぐマスクを。

三密防止

家でも換気・加湿を

・換気の悪い密閉空間は集団感染(クラスター)リスクが高まる
ことがわかっているため、学校では以下の取り組みます。

- ①換気扇を回す。
- ②窓を少し開けて常に換気をする。
- ③中休みと昼休みは窓を大きく開ける(5分間)。
- ④加湿器を使う(一昨年、教育後援会で買っていただき、今年、町・国の補助で追加購入しました)。
- ⑤冷え込みが厳しいとき「二段階換気(使っていない部屋の窓を開け、廊下を経由して少し暖まった状態の新鮮な空気を使っている部屋に取り入れること)」をし、室温が下がりにくい工夫をする。

・特にバスの中では、マスクを正しく着用し、会話を控えるようにします。



毎日の持ち物

- ・上着(換気のために教室の室温が下がります)
- ・健康観察表(水色の紙) ・清潔なハンカチ・タオル
- ・ティッシュ ・マスク ・予備のマスク ・マスクをはずしたときに入れる清潔なビニール袋や布袋
- ・三角巾(給食用) ・エプロン(給食当番のとき) ・水とう

健康被害が出ないように暖かい服装を!
(学校に置いておくことも認めています)
ぜひ、ざぶとんも使いましょう。

空気が乾燥するので、お茶でのどをうるおすことも効果があります。

感染症教育

○子どもが自分で考えて予防できるように、学年に応じ感染が起こりやすい環境や感染防止の方法について、引き続き指導します。児童会委員会活動などの子どもの力も借りながら、子ども同士で声を掛け合って感染防止の行動が取れるように働きかけていきます。

○感染に対する不安や恐怖心が、感染者に対する差別や偏見といった間違った形で現れてしまうことが心配されます。発症者や濃厚接触者、医療従事者等への差別や偏見、いじめなどにつながらないよう人権教育を行います。

地域で感染経路の不明な感染者が増えてきたら

ご協力をお願いします!

- ・家庭科の調理実習や音楽科で友達と音楽表現を工夫する活動など学校の授業で取り扱うことが望ましいとされている学習活動であっても、感染症対策を講じてもお感染のリスクが高いものは、状況によっては行わないようにする。
- ・毎日の児童の健康観察はもちろんのこと、例えば、家族に発熱、咳などの症状がある場合には児童の登校を控える。
- ・休日の不要不急の外出を控える、仲の良い友人同士の家庭間の行き来を控える、家族ぐるみの交流による接触を控えるなど、学校を通じた人間関係の中で感染が広がらないよう細心の注意が必要。

(「学校の新しい生活様式(文部科学省2020.12.3)」より)